

事後評価結果（平成17年度）

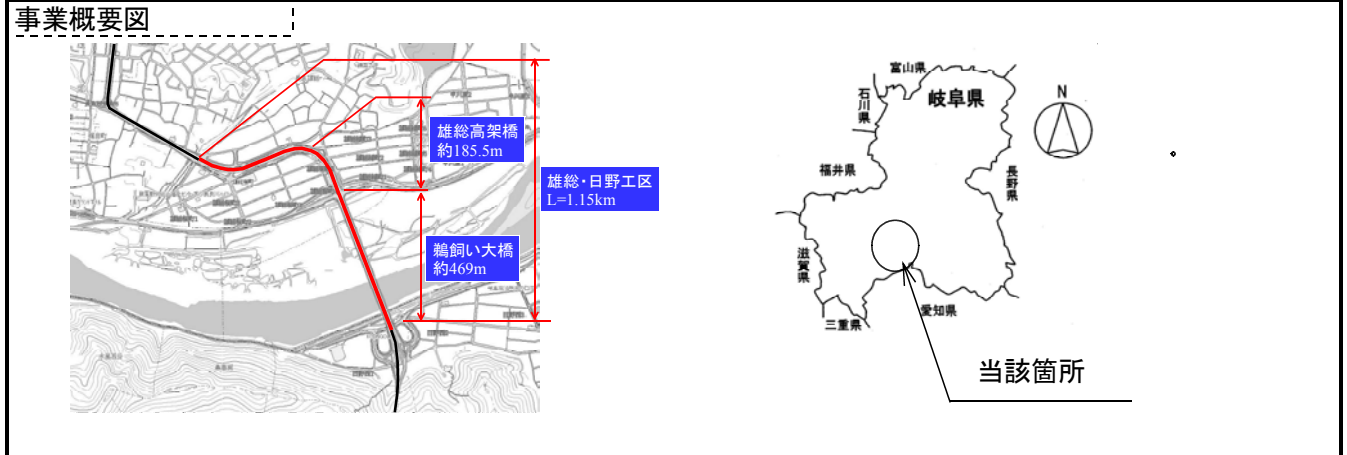
担 当 課：中部地方整備局

担当課長名：筒井 祐治

事業名	岐阜都市計画道路 環状線	事業区分	街路	事業主体	岐阜県	
起終点	自：岐阜県岐阜市雄総 至：岐阜県岐阜市日野	延長	1. 15 km			

事業概要
環状線は、一般国道21号、156号と連携し、岐阜市中心部の外郭をループ状に結ぶ延長13.6kmの都市計画道路であり、岐阜地域の重要な幹線道路である。このうち、長良川を渡河する「鵜飼い大橋」を主要事業とした雄総・日野工区1.15kmを平成7年度より街路事業として整備したものである。

事業の目的・必要性
当該工区の完成及び隣接の日野工区（道路事業）の部分完成により平成15年3月に環状線の全線が開通し、岐阜市中心及び周辺部の交通円滑化に大きな効果をもたらしている。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H7年度	用地着手	H8年度	供用年	(当初) / H15		
		都市計画決定	S42年度	工事着手	H8年度	(暫定/完成)	(実績) / H15	変	動
	事業費	計画時	(名目値) / 億円	実績	(名目値) / 197億円	(暫定/完成)	(実績)	変	動
		暫定/完成	(実質値) / 億円		(実質値) / 億円			動	倍
	交通量	計画時		実績				変	動
	(当該路線)	暫定/完成	/ 台/日	(暫定/完成)	/ 26,512台/日			動	%

旅行速度向上	22.7 → 31.5 km/h	交通事故減少	→ 件/億台キロ
(供用前現道→当該路線)	(供用直前年次) 14年度 (供用後年次) 16年度	(供用前現道→供用後現道)	(供用直前年次) 年度 (供用後年次) 年度

費用対効果分析結果 (当初)	B/C	総費用	億円	総便益	億円	基準年	年
		(事業費)	億円	(走行時間短縮便益)	億円		
		(維持管理費)	億円	(走行経費減少便益)	億円		
				(交通事故減少便益)	億円		

費用対効果分析結果 (事後)	B/C	総費用	231億円	総便益	409億円	基準年	H16年
	1.8	(事業費)	億円	(走行時間短縮便益)	億円		
		(維持管理費)	億円	(走行経費減少便益)	億円		
				(交通事故減少便益)	億円		

事業遅延によるコスト増	費用増加額	便益減少額	
	億円	億円	

事業遅延の理由

客観的評価指標に対応する事後評価項目
 ○岐阜市内主要地点における所要時間の短縮
 ・鵜飼い大橋の供用により長良川とか交通が分散し、渡河部の道路がスムーズに通行できるようになった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・朝夕ピーク時に長良橋を利用する交通（岐阜市長良福光交差点～岐南インター）の所要時間が5～7分程度短縮された。 ○周辺路線における騒音値の低下 <ul style="list-style-type: none"> ・菊川交差点（鵜飼い大橋南東部） 5 dB低減
	その他評価すべきと判断した項目
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目
	その他評価すべきと判断した項目
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <p>鵜飼い大橋の南詰めに2つの消防署分署を統合する「鵜飼い大橋分署」を建設中であり、新たな地域防災拠点が創出されつつある。</p>
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>事業による効果が十分に発現され、さらに地元及び道路ユーザーへのアンケートによる総合評価の結果、満足度が高いため、今後の事業評価は必要ないものとし、岐阜県事業評価監視委員会において了承された。</p>
	計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性
	特記事項

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。